

平成 28 年 8 月 3 日

各位

会社名 株式会社 新生銀行
 代表者名 代表取締役社長 工藤 英之
 (コード番号 : 8303 東証第一部)

平成 29 年 3 月期 第 1 四半期決算について

当行の、平成 29 年 3 月期の第 1 四半期における親会社株主に帰属する四半期純利益¹は 81 億円、前期比 143 億円の減益となり、通期業績予想である 520 億円に対する進捗率は 16%となりました。単体四半期純利益は 75 億円、前期比 118 億円の減益となりました。

損益の状況(連結)

(単位:億円)

	平成29年3月期 第1四半期(3か月)	平成28年3月期 第1四半期(3か月)	増減額
業務粗利益	556	579	△23
経費	△354	△349	△5
実質業務純益	201	230	△28
与信関連費用	△80	20	△101
親会社株主に帰属する四半期純利益 ¹	81	225	△143

業績

- **業務粗利益**は、556 億円となり、前第 1 四半期比 23 億円減少。このうち資金利益は 303 億円で、消費者金融ファイナンス業務における貸出残高の増加に伴う収益の伸長が見られた一方で、有価証券配当収益の減少などにより、前第 1 四半期比 7 億円減少。非資金利益は 252 億円で、ALM 業務において国債等債券売却益が堅調に推移したものの、リテールバンキング業務での資産運用商品販売を始めとした市場関連収益が減少したことや、法人業務で前第 1 四半期に計上した大口収益が剥落したことなどにより、前第 1 四半期比 15 億円減少。
- **経費**は、354 億円となり、業務基盤の拡充を図るためのシステム費や広告費などの戦略分野への経営資源の投入を図ったことなどにより、前第 1 四半期比 5 億円増加。経費率は 63.7%。
- **与信関連費用**は、前第 1 四半期に計上した法人業務における大口の戻り益が無かったこと、消費者金融ファイナンス業務での順調な貸出残高増加に伴い貸倒引当金の繰入が計上されたことなどから、前第 1 四半期の 20 億円(益)から 101 億円の費用が増加し、当第 1 四半期は 80 億円(費用)。
- **親会社株主に帰属する四半期純利益¹**は、前第 1 四半期の 225 億円から 143 億円減益となり、当第 1 四半期は 81 億円。
- **単体四半期純利益**は、前第 1 四半期の 194 億円から 118 億円減益となり、当第 1 四半期は 75 億円。
- **総資産**は、平成 28 年 3 月末の 8 兆 9,287 億円から 3,416 億円増加し、平成 28 年 6 月末は 9 兆 2,704 億円。

資本および資産の質

- **自己資本比率**は、引き続き十分な水準を確保。パーゼル 3 国内基準(経過措置適用ベース)での**連結コア自己資本比率**は平成 28 年 3 月末の 14.20%から平成 28 年 6 月末には 13.88%へ低下。パーゼル 3 国際統一基準(完全施行ベース)での**普通株式等 Tier1 比率**は平成 28 年 3 月末の 12.9%から平成 28 年 6 月末には 12.8%に低下。
- **不良債権比率**は、一部保有債権の債務者区分変更などにより、平成 28 年 3 月末の 0.79%から平成 28 年 6 月末は 0.82%へ増加。

¹ 企業結合に関する会計基準の改正を踏まえ、平成 28 年 3 月期より、親会社株主に帰属する純利益へ表記が変更されております。

当期決算の詳細については、以下当行 URL(「IR 情報」メニューの中の「四半期決算情報」)をご覧ください。

URL : http://www.shinseibank.com/corporate/ir/quarterly_results/index.html

以上

お問い合わせ先

新生銀行 IR・広報部 高橋、江口

Tel.03-6880-8303